

郵便とメール便

酒井 ただよし 董美

時代が進めば世の中の仕組みも変化する。変化の中には進歩もあれば退化もある。ここで取り上げるのは、郵便とメール便の比較のことである。郵便は元々国の機関として郵政省が管轄していたが、郵政民営化により、平成13年1月から日本郵政株式会社となった。そして働き方改革の名の下に令和3年10月2日から土曜日の郵便配達は無停止された。また配達日数も一日繰り下げとなり、今までのようには早く到着しなくなったのである。関連職員に取っては、これまでのような労働についての厳しさはなくなり、ゆったりと作業に取り組めることになったとはいえ、私たち市民にとってはどうだろうか。なかなか手紙や葉書も届かないと気になることも増えたのは間違いない。また郵便局について見ても、普通の郵便局は営業時間は午前九時にスタートしている。土曜日の午後、日曜日、祝日は休業である。ただ、本局だけは日曜日や祝日も午前中は営業しているが、午後は休みとなっている。

世の中が進歩し、スピードを競う時代に、このことは進歩に背を向けた退歩と断言して差し支えない。おそらく多くの国民がそのことを感じているに違いないのである。親方の丸の体質がそのまま引き継がれたこの民営化には、国民としては歓迎する気持ちにはまったくなれない。

一方、純然たる民営企業であるヤマト運輸の方を見ると、日本郵便の手紙や葉書に対応するものにメール便がある。ここでの開業開始時間は八時であり、郵便局より一時間早い。終了時間は午後六時である。土曜日、日曜日、祝日も同様で、配達についても日曜日だろうが休日だろうが関係なく配ってくれている。また、送る方も筆者の場合も角形封筒4号が多いが、厚さが2センチ以内だと84円で国内どこへでもOKである。郵便ではこうはいかない。角形4号ならば定形外となり、180円もする。筆者は著書も時々上梓するので、知人に対して出版した書籍も、常に角形4号のヤマト運輸で送るが、多くは84円で収まっている。

日本人は長らく郵便局と親しんできており、そのことについては筆者も同様であり、局員の方とも親しく、出会えば挨拶し、会話も交わしている。

ところで、実際、こうして両者を比較してみると、日本郵便とヤマト運輸とでは、これだけの違いがあるのである。経費を削減しなければ生活費にたちまち響いてくる庶民に取ってみれば、ヤマト運輸の存在は実際ありがたい。これからもますます利用して行こうと筆者は考えている。

それにしても大きな組織と長い歴史を誇る日本郵政グループである。であるからヤマト運輸でやれることが、郵便局でできないはずはない。それがこれだけサービス内容に差があるのである。彼らは内部でいったい何を考えているのだろうか。働き方改革もいいが、その名目に拘るあまり、国民へのサービスについては忘れていたのではなからうか。

郵便行政について、こうして眺めて見れば、明らかに進歩でなく退歩である。昔の充実していた郵政省時代が懐かしい。改めて日本郵政株式会社の時代に即した、国民目線に沿った改革を切に望むものである。